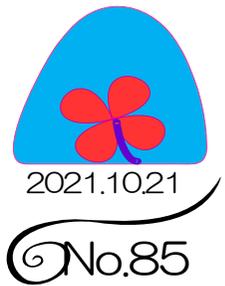


Assault
Prevention
Information
Space

～暴力防止に役立つ情
報の収集や発信の拠点
として様々な活動を
行っています～

APIS

NPO法人暴力防止情報スペース・APIS (アピス)



(写真撮影・刺繍 野中ひとみ)

- ◆ 巻頭言「京都動物園」
- ◆ 第116回わいわいトークを開催しました
- ◆ CAP スペシャリスト資格更新研修を受講して
- ◆ 体罰をみんなで考えるネットワーク会員限定交流会に参加して
- ◆ 学び舎より
- ◆ 「大阪ダルクが寄付金を募っています」
- ◆ APIS の活動記録 2021年7月～9月

京都動物園

暑い夏の日、京都動物園に行った。

夏の初めに大阪の天王寺動物園に行ったら、コロナ禍で事前予約がないと入れないとのことで見物出来なかったリベンジのつもり。

大阪では見れなくなった象やキリンもいた。

自分の昔を考えるとちょっと切なくなった。

都会で動物を見られなくなったことは動物にとっては良いことなのかもしれないが、動物園に来ていた子どもたちを見て「昔だったらもっとたくさんの動物を見てまわられたのにね。」と少し申し訳ないような気がした。人間側から考えるのではなく多角的な視点に立ったら、確かに動物園の檻の中の動物は不自然で可哀想なのかもしれない。でもきっと私は究極、人間と人間ではない動物を同じには扱わないと思う。大きな生態系の中の命の循環を自然なものとして受け止めているからだ。

カバが突然動いて池に入って水の中に潜り込んだ時、子どもたちは喜んでカバの動きを見ようと集まってきた。私はこの一瞬がとてもかけがえのないものに思えた。カバより人間の子どもたちの気持ちを優先しているからだと思う。自然ではあり得ないこの環境での記憶は、それでも子どもたちにカバの命の不思議と大切さを感じさせてくれたと信じたい。

大人になると子どもと違って動物園ですら純粹には楽しめないのだと知った。

(P)



第 116 回わいわいトークを開催しました

2021年9月8日 10～12時
西区民センター

今回は「私の好きなお散歩コース・おすすめスポット」と題して、開催しました。

参加者の皆さんに「お気に入りスポットを考えてきてくださいね」と伝えていたので、それぞれのお気に入りを紹介しました。

一番の人気はやはり「うつぼ公園」。大きな木の並木があり、桜やバラも咲き、犬の散歩でもにぎわっています。ベンチもたくさんあるので、ぼーっとできます。最近では子ども連れのファミリーの日よけテントがたくさん立つようになりました。また、公園の周りのおしゃれな雑貨屋さん、カレー屋さん、パン屋さん、ケーキ屋さんなどをぶらぶらするのも楽しいです。

次に人気は「川沿いの散歩」です。中之島に続く土佐堀川沿い、大阪ドームに向かう木津川河川敷、大阪ドーム南公園など、どこも整備が進んできれいになり、気持ちよく歩けるようになりました。中央市場付近まで行くとカモメにも会えます。街中とは違った雰囲気を楽しめる穴場スポットです。

ちょっと足を運んで、なんばパークスの庭、大丸の屋上、大阪城公園、長居公園などでも気分転換されていました。この時期、「出かける場所や出かける時間を考えている」とのことでした。

この他にも「最近の電化製品はよくしゃべるよね」「田舎暮らしのこと」「ペットのこと」「コロナ禍での換気のこと」「働いていた頃のこと」「断捨離と引越し」など、あちこち話題が移りながらの2時間でした。でも「やっぱりこうやって会って話すのが良いですね」が、参加者みんなの思いでした。「11月も楽しみにしています」と言っていただきました。何気ない日常のおしゃべりがどれだけ大切か、身に染みるこの頃です。よっぽどの事がない限り、この会は開催していこうと思います。

(マーガレット)



CAP スペシャリスト資格更新研修を受講して

2021年9月4日
オンライン

何年もワークショップに参加していないにも関わらず、このような原稿依頼をいただきましてありがとうございます。

研修内容は、CAPの歴史や理念、暴力の定義など基礎的なことから、トークタイムでのスペシャリストの役割と重要性、子どもへの性暴力が未だに社会的に埋もれている現実、それに対してCAPはどのようにアプローチするのか等・・・。

講師の方の言葉のひとつひとつが大切に、4時間があっという間でした。

CAP スペシャリストは、常に子ども(当事者)の視点に立ち、子どもの力を信じて、共感します。その後は、先生や保護者や地域のおとなたちへつなぎます。

ただ、おとな自身が問題を抱えている場合があるのも事実です。

できるだけ多くのおとなが、CAPのおとなワークショップを受けて、エンパワーメントされれば、子どもの問題をもっと安心してつなげることができるだろうと思いました。

コロナ禍で、子どもたちへの暴力が見えにくい今だからこそ、本当はCAPが必要なのに、ワークショップが全体で4割減になっているのはとても歯痒い思いがします。

できるだけ早く終息することを心から願います。

今回、オンライン研修ということで初めは少々緊張しましたが、グループセッションでは、普段お話しする機会のない他のCAPグループの方と、短い時間ですが交流することもでき、とても有意義な時間を過ごせました。

ありがとうございました。



(R.H)

体罰をみんなで考えるネットワーク会員限定交流会に参加して

2021年8月1日
オンライン

テーマは「人はなぜ熱中症になるのか?～子どもたちを守るために発症メカニズムを学び、私たちにできることを考えよう!～」話題提供者として、重富、田村(ネットワーク世話人)が進行役を務めてくれました。

夏の猛暑が続く中で、熱中症の知識が世間や教育現場に広く行き届いていないために体育・スポーツ時の死亡事例や重症化が報道されることが多くなりました。「熱中症に気を付けよう・水分を取りましょう」ってよく聞くけど、実はそれだけでは防ぐことが難しいこと。熱中症のメカニズムから学んでどうすれば熱中症を防げるのか?について学習しました。

まず、人間は恒温動物なので深部体温を 37 度に保つ必要があります。体温が著しく上昇すれば、汗を出すことや皮膚表面から熱を逃がすことで調整します。しかし、湿度が高い日本の場合、汗をかいても気化しにくく、体表を覆う服を着ていると（剣道や柔道の胴衣など）上昇した熱を放散出来にくくなります。

そして、熱中症の中等症になれば、肝臓・腎臓の障害、中枢神経障害を起こし、競歩のオリンピック内定選手でも 1 年以上の後遺症を発症しています。

そこで熱中症予防のために WBGT <Wet-Bulb Globe Temperature（湿球黒球温度）の略称>があります。気温・湿度・気流・輻射熱を考慮して指標化したものです。例えば気温が 28 度でも他の湿度・気流・輻射熱が高ければ警戒レベルになります。WBGT 測定器は学校現場には十分に普及しておらず、指標を適切に活用できていません。熱中症の水分補給は、塩分補給も重要ですが、常温水でなく冷水でなければ体温が下がりません。水分を補えば良いだけではないのです。

「熱中症は症状が出たら〇〇する」ではなく、そもそも熱中症にしない。熱中症の危険性がある時間帯・場所では運動しない方針も考慮すべきだと思いました。

以前、生活保護ではエアコン設置購入費が補助されない自治体があることが新聞報道されていました。スポーツ・体育の時の熱中症だけでなく子どもたちがどのような生活状態にあるのか？熱中症の視点からも注意深く見ていく必要があると思いました。

追記：2020 東京オリンピックで WBGT は適用されていませんでした。

資料：熱中症予防ガイド（日本スポーツ協会）

（たくわん）



学び舎より

今の子どもたちは、昔の子どもたちとは違う、とても変化しているということを聞くことができます。私自身はあまりその考え方は好きではありません。近頃の若いものは、という言葉と同じ匂いがするからでしょうか。子どもの本質は今も昔もあまり変わっていないと感じることが多いためでしょうか。

低学年の授業で「生活」という科目があります。私の子ども時代は 1 年生から社会科や理科がありました。今は 2 年生までは理科社会が統合された生活科を学びます。初めて生活科を教えることになった私が驚いたことは「これって、私が小学生の頃、道草をくっていたときにやっていたことだ！」ということです。小学生時代を父の転勤で九州の田舎で過ごした私は、家から小学校まで 20 分ほどの道のりを歩いて通っていました。田舎のことで学区も広く、校内で一番家が遠い男の子は山のふもとに家がありました。子どもの足で歩いたり走ったりで 1 時間半という、今では考えられない距離の登下校です。（マラソン大会で彼はいつもぶっちぎりの 1 位だったこともうなずけます。）



田舎の道ですから空き地も多く、大きな池もあり自然の残る土地でした。帰る道すがら雑草をちぎって遊んだり、春にはピーピー豆の笛を作ったり（上手く鳴ったためしがないのですが）秋にはどんぐりを拾ったり、たんぼぼの綿毛を飛ばしたりと一年中思い思いの遊びをしながら道草を食い食い家に帰っていました。大きな池から聞こえるウシガエルの大合唱は今でも耳に残っています。

生活科の授業で、春を見つけようという単元があります。学校の中をめぐりながら、草花遊びをしたり虫を観察したりするのです。まさに子ども時代の私が道草を食って遊んでいたその内容を授業で教えるのです。

学校の敷地内ですから虫も草花も限られたものです。それでも子どもたちは生き生きと楽しそうにしています。私も学校の一角にある小さな畑でピーピー豆（正式名はカラスノエンドウ）を見つけ、懐かしいなあと感慨にふけりながら、中の豆をとってさやをちぎり笛にすることを子どもたちに教えたりします。（まさか、こんなことを私が子どもに教える日が来るとはなあ！と思いつながら、こんなことは友だちに教えてもらうことだと思っていましたから。）

校外学習で、4年生の子どもたちと河川敷に行った時のことも忘れられません。たまたまシロツメクサの花がたくさん咲いていたので、なんとはなしに摘みながら花のかんむりを作っていると「教えて、教えて」とあつという間にたくさんの子たちがかんむり作りに興じることとなりました。花のかんむりを作ったことがないんだなあ、都会にはなかなかそういう場所がないからなあと思ったり、でもゲームも好きだけど草花遊びでもこんなに楽しめるんだなあと思ったり。嬉しい驚きでした。

子どもたちにとって自然の力は偉大だと折にふれて思います。5年生の子どもたちと宿泊体験で海に行ったときのことで。昼食を砂浜でとった後の短い自由時間、子どもたちは思い思いに遊んでいました。波打ち際でかけまわったり、砂浜にいる生き物を見つけたり、とにかく教室にいるときには考えられないようなものすごい集中力で遊びに没頭していました。普段、対人関係で問題行動の多い子どもたちも、信じられないくらい生き生きとした時間をすごしていたことを昨日のことにように思い出します。

環境が激変してはいるものの、思いっきり遊ぶ姿を見ていると子どもたちの本質はあまり変わらないんじゃないかという考えに行きつきます。とはいえ、自然の中での経験は減り、生活の中で季節を感じるというごくごく当たり前のことですら、今では学校の学習に盛り込まれています。道草を食うという私にとっては素敵な体験も、今や登下校時の連れ去りの危険性を考えたり、子どもがなかなか帰ってこないと心配され学校に電話で連絡されるお家のことを考えると、安易に学校では話せないなと思います。それでも自分の子ども時代を考えた時に、学校の授業の内容はほとんど思い出せない一方で、道草を食っていたあの時間を生き生きと思い出することができるということは、一見何の役にも立っていないのんびりした時間こそが子どもの情操にとっては大切なものだということでしょうか。



(G.M)

「大阪ダルクが寄付金を募っています」

大阪ダルクは 1993 年に始まり、薬物依存症回復支援施設として様々なプログラムを提供し続けています。フリーダムは大阪ダルクと連携し、薬物依存症の当事者の回復支援に加えて、家族の相談支援、社会への啓発活動を行っています。そして、倉田めばさんは大阪ダルクを立ち上げた人でフリーダムの代表でもあります。

APIS はフリーダムの発行する「フリーダムニュース」を購読し、フリーダムの主催するセミナーや、クリスマスの頃に開催される感謝祭にメンバーが参加してきました。何より、2009 年に「生きている図書館」を大阪で企画した時には倉田めばさんが「本」になるなど、共に作り上げた仲間として信頼しています。

また、私は 2015 年 3 月のセミナー「自己感の破たんと再生」に参加して、熊谷晋一郎さんと綾屋紗月さんの話を聞きました。「自分」の捉え方や「痛み」の理由など、その日の学びは衝撃的で、目から鱗が何枚も落ちました。

現在大阪ダルクとフリーダムは阪急下新庄駅を最寄りとするマンションの隣り合った部屋で活動していますが、2022 年度中に新しい場所に施設を持つと準備中です。

国の障害福祉サービス事業を提供する施設となって、運営を安定させ、依存症からの回復プログラムに加えて就労型のプログラムを提供することや地域での生活改善支援が可能になることを目指しています。

そのため、活動場所を移転する費用、認可を得るための設備を整える費用など沢山の資金が必要となっています。

2022 年 3 月末を期限に 1,000 万円を目標として資金確保への協力を求めています。

これまで APIS は、大阪ダルクの活動に連携し、交流もあることから、多くの人に寄付金募集のことを知ってもらいたいと考え、ニュースレターに掲載することにしました。

寄付の協力方法

・郵便振替:口座番号 00920-0-113583 加入者名 Freedom

「B 型寄付」と記入

・銀行振込:三菱 UFJ 銀行 淡路支店 普通 4704597 フリーダム代表 倉田めば
(送金した旨連絡 メールアドレス mebako505@gmail.com)



(のぶどう)



APIS の活動記録

2021年 7月～ 9月



7月

- 4日(日) CAP スペシャリスト資格更新研修: 1名受講 (Zoom 開催)
- 7日(水) 講師派遣: 大阪府看護協会実習指導者講習会「人権研修」
- 12日(月) 電話相談ミーティング
第1回読書会「本当の勇氣は弱さを認めること」(ブレナー・ブラウン著)
- 14日(水) わいわいトーク「リサイクル工作～チラシでBOX～」
- 15日(木) 定例ミーティング
ニュースレターNo.84発行 発送作業
- 20日(火) 講師派遣: 大阪キワニスクラブ→再延期 7月20日→中止
- 26日(月) 第2回読書会「本当の勇氣は弱さを認めること」
- 29日(木) オンライン受講: クレオ大阪子育て館「コロナ禍の女性への影響」
- 30日(金) HP ミーティング

8月

- 1日(日) 体罰をみんなで考えるネットワーク交流会 オンライン参加
- 2日(月) ケース対応
- 4日(水) 都島区社協 ボランティアアドバイザー連絡会→中止
- 19日(木) 定例ミーティング / 電話相談 自主勉強会
研究協力: 「女性に対する暴力の被害者支援を行う非営利組織活動の継続可能性」
(Zoom 面談)
- 20日(金) 「CAP ヨルノバー」オンライン参加
- 23日(月) 第3回読書会「本当の勇氣は弱さを認めること」



9月

- 4日(土) CAP スペシャリスト資格更新研修: 1名受講 (Zoom 開催)
大阪弁護士会「そうか、SDGs って、憲法やったんや!」オンライン参加
- 8日(水) わいわいトーク「私の好きなお散歩コース」
- 13日(月) 電話相談ミーティング
第4回読書会「本当の勇氣は弱さを認めること」
- 16日(木) 定例ミーティング
講師派遣: 大阪府看護協会実習指導者講習会「人権研修」
- 17日(金) HP ミーティング
- 26日(日) 体罰をみんなで考えるネットワークオンラインセミナー参加
- 27日(月) 理事会



編集・発行



編集後記

オートミールを使って
ケーキやパンを焼くのに
ハマってます。
美味しいです。 (H.N)

NPO法人暴力防止情報スペース・APIS
〒534-0023 大阪市都島区都島南通 2-4-21
TEL:06-6924-5551
FAX:06-6924-5556

